

7月の安全運転のポイント

平成28年7月号

高速道路は自動車の専用道路なので一般道路に比べると走りやすい道路ですが、その反面予期していなかった危険に遭遇することもあります。そこで今回は、最近の高速道路事情も踏まえて、万一の危険への対応などを中心に高速道路走行時の留意点をまとめてみましょう。

高速道路に入る前に給油をしておく

道路交通法において、高速道路を走行するときは、あらかじめ燃料、冷却水、原動機のオイルの量などを点検することが定められていますが、特に注意したいのが燃料です。

最近の高速道路は、いくら走っても給油所がないという区間が多くなっており、「前回の高速道路走行時には、サービスエリアの給油所でガソリンを入れたから」と、給油せずに高速道路に入ると給油所が閉店しているということもあります。万一、燃料切れで本線上に立ち往生すると、後続車に追突されるなど極めて危険な状態を招きます。高速道路に入る前には必ず燃料をチェックし、十分な量を補充しておきましょう。



渋滞の最後尾につくときは後続車に注意する

渋滞車両の最後尾についた車に後続車が追突するという事故は一般道路でも発生しますが、高速道路はスピードが出ているだけに重大事故につながりやすく、多重事故になるケースも少なくありません。

追突されるのを防ぐのは難しい面もありますが、可能な限り危険を回避できるような措置をとっておくことも大切です。

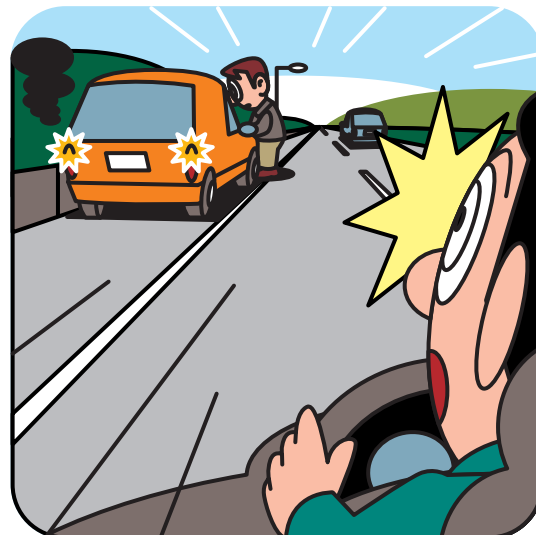
渋滞車両の最後尾につくときは、早めにハザードランプを点滅させて後続車に自車の減速・停止を知らせます。停止するときやノロノロ運転で追従するときは、前車との車間距離をとっておくとともに、走行車線（走行車線が2車線以上ある場合は路肩寄りの走行車線）にポジションをとるのがよいでしょう。これは、万一後続車が渋滞に気づかず進行してきた場合に、路肩へ逃げるといった手段を残しておくためです。そのためにも、渋滞に気づいたら早めに車線を変更しておくとともに、後続車に十分注意し、その動きを早めに察知するよう心がけましょう。



高速道路に人はいないという思い込みをしない

高速道路でも人との事故は発生しています。例えば「故障車の周囲にいる人が本線に出てくる」「高速道路のバス停から人が本線に出てくる」といったケースがあります。高速道路のバス停については、高速バスを降りた人というより、高速道路のバス停とは知らずに外から入ってきた人が本線に出てくるようです。

高速道路に人はいないという思い込みはせず、常に前方の状況に目を配るとともに、特に夜間は発見が遅れがちになりますから、スピードを出し過ぎないようにし、ヘッドライトは上向きを基本にして危険の早めの発見に努めましょう。



逆走車への対応も頭に入れておく

高速道路の逆走車については、それを防止するためにサービスエリアに標識を設置したり路面標示をするなどの対策がとられていますが、根絶までには至っていません。逆走車への対応も頭に入れておきましょう。

逆走車は追越車線を走行することが多いといわれていますから、走行車線を走行することで逆走車との正面からの遭遇リスクを少なくすることができます。また、後続車からの追突を回避する場合と同じように、いざというときには路肩へ回避する手段もとれます。

高速道路は走行車線を走行することが基本ですから、これをしっかり守ることが自分の安全を守ることにつながるのです。



万一、トンネル内で火災に巻き込まれたら

トンネル内で火災に巻き込まれたときは、可能な状況であれば車を非常駐車帯か道路の左端に停止させます。通報する余裕がある場合は、押しボタン式通報装置（50mおきに設置）か非常電話（200mおきに設置）で通報してください。

トンネル内には非常口サインがあるので一番近い非常口に向かうのが原則ですが、煙が広がった場合には、煙の流れをよく見て煙に巻き込まれない方向の非常口を確認します。なお、トンネル内のスピーカーから情報や指示が放送されたときは、それに従いましょう。



「ご相談・お申込先」